

表 3 体験事業の参加後に「自分が成長できた」と感じる点（回答 12 人）

自然をもっと大切にしたいと思うようになった。友達と協力していろいろな作業ができた。家族がいなくても、友達と楽しく過ごす事ができた。
知らない子と仲良くなれると自信がついた。いろいろな仕事をして仕事について知ることができた。4泊5日も泊まったことで、1人でも大丈夫なんだと自信がついた。
知らない人と友達になった。
参加者と楽しい気持ちを分かち合えたと思った。なぜなら皆と一緒に寝起きしたから。楽しく仲良く仕事が出来て、自分が変わった、と思った。なぜなら普段の生活では出来ない事を体験出来たから。それぞれの職業凄さが分かった。なぜなら作業している所を見せてもらえたから。
自然に興味を持つようになった。
初めは家族と離れて1人で参加することに大きな迷いがありましたが、勇気を出して新しい経験に挑戦することができました。
4泊5日間、家族と離れても楽しく生活できて自信がついた。今まで知らなかった仕事を知れて、他にもたくさん知らない仕事があることに興味がわいた。学校の委員会などの活動に、前より積極的に参加できるようになった。
親から離れて過ごすことができた。初めての友達と生活することができた。規則正しい生活を、送れた。
ちいさなちいさな虫なら、大騒ぎしないでやっつけることができるようになった。いままでは、お母さんの提案に対しておっくうな気持ちしかなくて、「えーやだな」とばかり思っていたけど、私のこれまでは知らない人の世界でなら、言われたことも「やってみようかな」と思えるようになった。だから、里山体験のあとに家に帰って、これまでよりも「チャレンジしてみようかな」と実行する気持ちを持てるようになった。
知らないお友達と仲良くなることができた。色々な経験ができて、生活に感謝することができた。
成長できた。
初めてあった人と、仲良くなることができた。仕事の大切さが分かった。

5. 保護者からみた体験事業の参加後に「子どもの成長」「子どもの変化」を感じる点（フォローアップ調査）

参加者の保護者が体験事業の参加後に「子どもの成長」「子どもの変化」を感じる点を表 4 に示す。回答を見ると、「自信がついた」「遅くなった」「（物事に）意欲的・積極的に取り組むようになった」「やり遂げる力がついた」と心の成長を感じるといった意見が多く見られた。また、「協調性」「人間関係を築く力」など社会性を身に付けたという意見も多かった。結果から、保護者は体験事業に参加した子どもたちの心の成長や社会性の発達を感じていることが伺える。

表 4 保護者から見た体験事業参加後に「子どもの成長」「子どもの変化」を感じられる点（回答 12 人）

今回のような宿泊体験に参加したのは初めてで、しかも 4 泊 5 日と長い期間親元を離れて過ごせた事が一番の成長でした。学校などで以前よりも積極的に学年問わず知らない友達にも話しかけるようになりました。
親元を離れて知らないお友だちや環境の中過ごしてきたことで、ひとまわり遅くなったように思いました。また、自然の中さまざまな体験をさせていただき、どの体験についても目をキラキラさせながら話してくれる姿が印象的でした。将来について少し考えるようになったことも成長だと思います。本当にいろいろとありがとうございました。とても良い思い出になったようです。
色々な活動に対して意欲的になった。
人見知りなく誰とでも仲良く出来る子ですが、初めは少し緊張気味で、家族と離れるのが寂しそうだったので、大丈夫かなと少し心配でしたが、迎えに行った時にはすっかり皆さんと仲良くお友達になっていたのでホッと安心を感じました。違う学年の方と触れ合えていたようで、それが良かったです。陽に焼けてたくさん蚊に刺されていたのを何も気にしていない様子で、遅くなって帰ってきたように思えました。親元を離れての宿泊体験は初めてさせました。持ち物を用意したり重たい荷物を運んだりも頑張っていました。帰ってから、楽しかったまた行きたいと繰り返していました。特に漁師さんのお手伝いをしたがっていたので、それが叶って学びになったようなのと、蜜柑で作ったチーズケーキがとても美味しかったのが一番の思い出のようです。スタッフさんにもよくして頂いたのが伝わりました。コロナ禍で参加させるのを躊躇いもありましたが、なかなかこのような体験は出来るものではないだろうと、キャンセル待ちで空気が出たのをありがたく感じ参加させて頂きました。たくさんのお土産の中でも、まな板で料理を作るのを手伝ってくれています。愛着があるものを使うとより楽しいようです。ヒノキの切り株やくらげの置物もラベンダーも、大切に飾っています。今回のイベントで、都会の生活では触れる事の無い体験をたくさんさせて頂きました。今後、親子で参加出来るイベントなどにも参加してみたいです。現在小学 2 年の妹が、自分も参加したい、と言っているので、時期が来たら応募したいです。この度は本当にお世話になり、ありがとうございました。
遅くなってきたと感じます。
最終日に解散場所で母と兄に会った際、母の顔を見ると涙が出そうだったので兄にくっついていましたが、気持ちが落ち着いた後で涙が出そうだったという自分の思いを伝えてくれました。普段は自分の感情を伏せる傾向があったり、うまく言葉で表現し切れないのですが、素直な気持ちを言葉で伝えてくれました。普段は学校での出来事を話さないのですが、お仕事体験の帰路の車中では母と兄が口をはさめない程ずっと 5 日間の体験を話して聞かせてくれました。
以前より家のことを素直に手伝ってくれたり、自分の支度にだんだんすることが減りました。自分が大人になった時にする仕事にも、以前より具体的に興味かわいてきたようです。
やり遂げる力がついた。協調性がより身についた。魚をより食べれるようになった。
新しい環境が苦手な長女が「妹がいなくても一人でもいいから」と行きたがり、学校を休ませて送り出しました。学校は行きたがる子ですし、妹がいないと新しい世界に飛び込めない子ですが、貴重な体験だと感じて飛び込んだ、そのことが大きな成長だと思いました。
荷物や服の準備は、5 年生の時の宿泊授業の経験が役にたったようで自分で支度して、親は何も手伝いませんでした。食品の持込を禁止してくださり、飲料もご用意いただけたので助かりました。他人に頼ることが苦手な子なので、足りないものなどは自力で考えてなんとかしたようです。苦手な食材が食事に含まれても、作ってくれた宿の方を考えて、おいしくいたいたようです。虫に刺されて腫れて痒くても、ヒルに噛まれて怪我してしまった子のほうが大変そうだからと、持ち込んだ薬で堪えたようです。疲れをためて熱を出したようですが、風邪などひくこともなく元気に帰宅し、たくさんの思い出話を聞かせてくれました。帰宅してからせっせと天草を洗って干して美味しい羊羹も振る舞ってくれました。知らない人ばかりの中でも仲間をつくって生活できると、楽しめること、落ち着いて興味深いことに取り組めることなど、こども自身が「私は知らない人のなかでも楽しめる」と自信がついたようです。様々な体験をさせてくれた皆様、企画運営してくださった方、かけがえのない経験となりました。両親共に感謝しております。
学校の宿泊合宿ですらも行きたがらない心配症、不安症の娘でしたが、今回学校からもらったきたチラシを見て自分から行きたいと決めました。安心材料は持っていきましたが、それでも親元を離れて、学校の仲間でもなく、知らなかった仲間と出逢い、楽しい経験をする事ができたのはとてつもなく人生の大きな財産になったと感じています。解散場所から半べそで、今までの GAMAN を吐き出すかのような娘でしたが、大きな成長を感じることができました。この経験から自信もつたように感じます。参加させていただき、ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。
生き物を大切にしようと感じたり、自然に対して興味を以前よりもつようになったように思います。
最終日に真鶴へ迎えに行き、帰り際、海に寄ったのですが、そこで遠くのほうに漁船が見えて、息子が一言「あー、今頃の時間は網を引き揚げに来たのかな」と。いつもだったら、ただの乗り物の一つ、景色の一部にしか見えなかったものが、同じものをみても感じ方が大きく変わっていることにハッとさせられました。そこにいる人、生活、仕事など、一つのつながりとして感じ取れるようになったんだ。。。と。 息子に帰りの車の中で、五日間どうだった？？と聞いたら第一声は「人がみんな優しくかった」でした。コロナもあり、人と新しく出会う機会がだいぶ減っていた中で、人見知りに拍車がかかっていたように見えた息子が、優しい大人たち、お友達に囲まれて楽しく過ごせた五日間は自分にとって大きな自信になったのではないかと思います。 この貴重な機会を与えてくださった皆様には本当に感謝の気持ちしかありません。ありがとうございました。また、機会がありましたら下の娘も連れて遊びに行かせてください。

令和 4 年度 文部科学省委託

「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」 子供たちの心身の健全な発達のための自然体験活動推進事業 成果報告

「こんな仕事があるんだ」を体験！ 第一次産業の自然体験

山仕事 里仕事 海仕事 体験

一般社団法人 神奈川大井の里体験観光協会

神奈川県知事登録旅行サービス手配業第 59 号

〒258-0012 神奈川県足柄上郡大井町柳 248
TEL/FAX：0465-43-6309
E-mail：office@taikenkankou.com
HP：http://taikenkankou.com



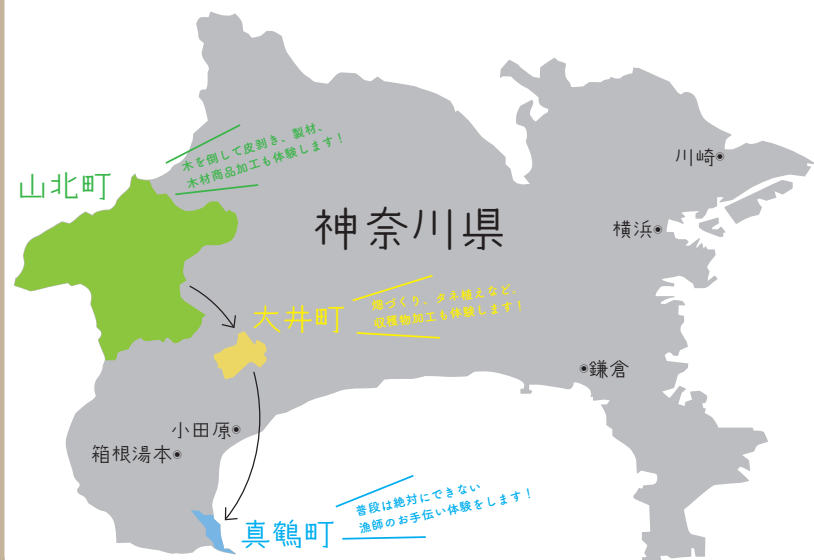
一般社団法人
神奈川大井の里体験観光協会

本事業の趣旨 / 文部科学省「委託要綱」より引用

平成30年6月に閣議決定された「第3期教育振興基本計画」においては、「子供の健やかな成長のためには、豊かな心を育むことが不可欠である。このため、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、物事を成し遂げる力、公共の精神等の育成を図る」などとし、社会体験活動や自然体験活動等も含め、児童生徒の多様な体験活動の機会を充実することの必要性を求めている。

他方、独立行政法人国立青少年教育振興機構が公表した「青少年の体験活動等に関する意識調査」（令和元年度調査）によれば、1年間の公的機関や民間団体等が行う自然体験活動に関する行事への参加率が5割程度であるなど、体験活動の重要性が社会全体で必ずしも認識されていない課題が浮かび上がっている。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、青少年の日常生活において、遊びや体験の場、本物に触れるなどの体験活動の機会の減少や格差が課題となっており、感染症対策を踏まえながら、安全・安心に体験活動を実施できるよう対策を講じることが急務となっている。

以上を踏まえ、子供たちの体験活動の機会充実のため、感染症対策を踏まえた安全・安心な体験活動の在り方に関する事業を実施するとともに、体験活動に関する普及啓発事業を実施することにより、社会全体で体験活動を通じた青少年の自立支援を一層促進する。



本事業の目的

一般的に余暇 / レジャーとして「楽しさ」を追求する体験活動が多い中、子どもたちの未来に深く関わるSDGsの開発目標にもなっている第一次産業の「働く」ことに焦点を当てた体験活動を実施した。

本事業では地域特性を活かして、自然・生活環境の異なる山地・里山・里海地域の連携による第一次産業の職場体験を通じて、子どもたちに働く意義や働く目的等の理解醸成をめざした。

また、開放的な自然環境のもとでの体験活動により、子どもたちの日常生活の閉塞感を少しでも解消することにも努めた。

本事業の概要

自然環境の維持保全に向け特に関連の深い職業体験を通じて、子どもたちに働く意義や働く目的等の理解醸成をめざすとともに、4泊5日の自然体験活動を通じて子どもたちの日常生活の閉塞感を少しでも解消することをめざした。

そのため、山里海の自然環境のつながりや、従事者、居住者との交流による暮らしの理解、自然の中での活動の楽しさや偉大さの理解を通じて、日常生活にどのように作用するのか、子どもの社会的健康という「will-being」の観点から意識変容、行動変容についての検証を行った。

■実施報告

日時：2022年8月22日（月）14:15 集合
～26日（金）11:15 解散の4泊5日
※JR御殿場線及び、JR東海道本線の到着・出発時刻を考慮して設定

場所：p3～8にそれぞれ掲載
対象：小学校4～6年生、14名
費用：33,000円
（宿泊費、食費代、期間中の移動、体験料、保険代など）
内容：p3～8にそれぞれ掲載
主催：（一社）神奈川大井の里体験観光協会
協力：大井町・（一社）真鶴町観光協会・石田林商イシタカ・（株）丹沢交通
後援：神奈川県教育委員会

大井町町長・小田 眞一

神奈川県西部の特徴を活かし、地域が連携して貴重な体験を子どもたちに届けることができました。

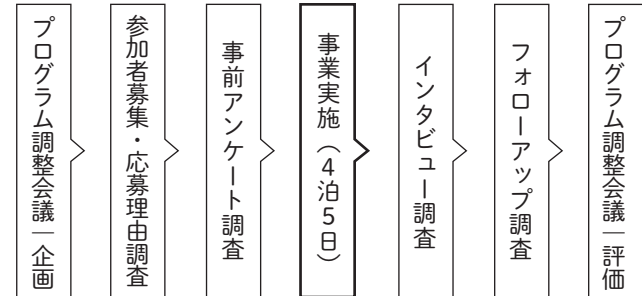


大井町教育長・夏苺 一壽

子どもたちが、第一次産業の職場体験活動を通して様々な大切なことを学ぶ機会になりました。



■全体像

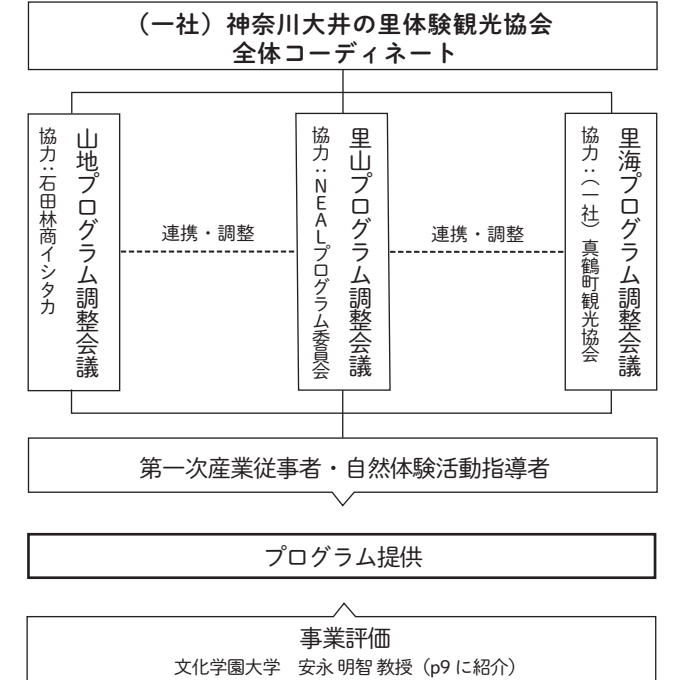


■コロナ対策

当会の『事業再開における新型コロナウイルス対応ガイドライン（第1版）』に基づき、3日前からの検温及び、健康チェックに加え、行程中の朝・晩の検温及び、健康チェックを実施。また、宿泊や飲食を伴う関係者については、全員が抗原検査キットを使用した検査を前日、滞在中（中日）にそれぞれ実施した。

■参加者募集チラシ

■実施体制



やま 山仕事体験。

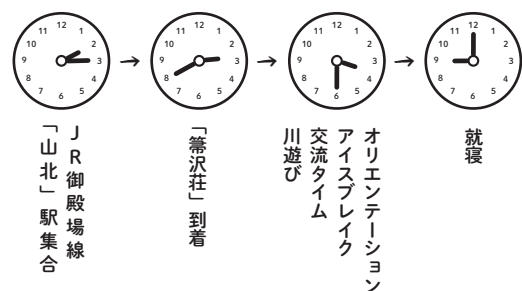
宿泊場所 民宿 簾沢荘
| 神奈川県足柄上郡山北町中川 7 2 8

活動場所 山北町の山林
神奈川県立つぶらの公園パークセンター
山北町観光協会 / 2 階スペース

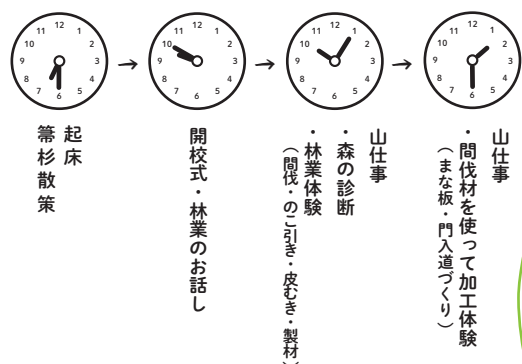
体験指導 石田林商イシタカ



1 日目
8 月 22 日 月



2 日目
8 月 23 日 火



3 日目
8 月 24 日 水



最近、あまり見かけなくなった単線、JR 御殿場線の山北駅に集合した。保護者の送迎により集まってきたが、みな緊張した面持ちであった。保護者との別れを惜しむ間もなく、すぐに移動車に乗り込み、いざ山へ向けて出発！

今宵の宿、簾沢荘に到着すると荷をおろして、すぐにアイスブレイク・交流タイム。学校も学年も違うお友達同士、「はじめまして！」ではあったが、あっという間に仲良くなった。そして、グループ分けやリーダーなど各々グループでの役割を検討した。

陽が暮れる前に丹沢の清流へお散歩に出かけた。きれいな水と、夏でも冷たいことに感動しつつ早速、石投げや川虫探し、ダムづくりなどの遊びがはじまった。子どもは遊びの名人である。

お腹を空かせて宿に戻るが、夕食前に男女交代で入浴時間。少し広めのお風呂におおはしゃぎ、川遊びの続きがはじまったようである。初日は、地元食材の夕食後、早めに就寝することにした。

2 日目、朝 4 時から起きている子どもたち！体調を考え、6 時までは横になってもらう。起床後は、推定二千年とも言われる国指定天然記念物「簾杉」の見学へ出かけた。

朝食後は、いよいよ初仕事体験、「山仕事」へ。まずは、「森診断」。山の健康度を確認する方法を学習。100 平方メートルに何本の木があるのか、木の生えている場所や胸高直径などから、健康な山にするために間伐する本数や伐採する木を決めていく。伐採する木が決まったら、林業従事者によるチェーンソーでの伐木を見学し

た。バーンツ！と大きな音をたてて木が倒れた。拍手喝采、林業のカッコイイ姿を目の当たりにする。

さて、次はみんなの出番。腰に吊るしたノコギリを使って、倒れた木を玉切りにしていく。玉切りした木は、山北町の三保地区に伝わる「門入道」という魔除けをつくる材料になる。好きな太さ、大きさに切り分けた。

午後からは山北町観光協会へ移動して、加工体験を行った。今回は、「門入道」づくりとオリジナル焼印付きまな板づくり体験を行った。まな板のワンポイント焼印が可愛い、オリジナル製品の出来上がり！良いお土産となった。

宿に戻り、まずは汗を流す。よく働いたこともあり夕食が美味しい。ごはんのお代わり続出！食後は、宿の女将さんによる地域の昔話「紙芝居」で交流を行った。良く食べ、良く働き、良く遊び…、寝床に就いた。

翌日は、山北町を後にして「里仕事」の舞台、大井町へ出発。さて、どんな出会いが待ち受けているのだろうか。夢の中で期待を膨らます子どもたち…。



倒した木を製材して
ようやく良く見る材になる



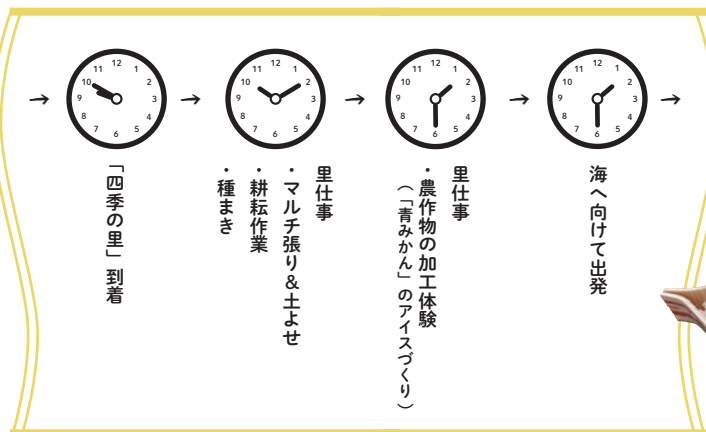
山北町三保地区に伝わる魔除け
「門入道」づくり体験



オリジナル焼印付き
まな板づくり体験

さと 里仕事体験。

3日目
8月24日 水



2泊過ごした簞沢荘にお別れをして、一行はマイクロバスにて大井町へ。里山の風景を眺めながら大井町赤田地区の畑へと向かう。この日は、真夏日ということもあり、ちょっと歩くだけでも汗だくなる天候であった。

畑に着くと、「里仕事」の説明とともに、耕運機の使い方のレクチャーを受け、早速、運転してみる。危険のないような立ち位置で耕運機を使う方法を習ったり、その後の作業を考えて無駄のない動きをすることを学ぶ。草を刈り、耕した後は整地して、マルチを張る。そこに、小さな大根の種を丁寧に蒔いていった。単に種を蒔くだけではない「里仕事」を知ることができた。さらには、こんな小さな種が、あんな大きな大根になるのだと驚き一杯であった。それにしても暑い…、「畑仕事」の大変さを知る。

また、大型重機で作業するカッコいい農家さんの「里仕事」にも触れるこ

とができた。しかし、この暑さには勝てない。農家さんの苦労を身をもって感じる事ができた。

その後、大井町農業体験室「四季の里」へ移動し、まずは水分補給を兼ねたスイカ割り体験。ありがたいことに農家さんからの差し入れである。こうした水分補給というのも「里仕事」ならではの体験である。

大井町の名物「ひょうたん」を型取った地元食材をふんだんに使った大井町弁当で昼食を済ませ、午後は、体験室にて農作物の加工体験を行った。

冬みかんは夏に摘果という作業が必要な品種もある。つぶなりの果実を間引いたり、傷モノや木の下の方に実ったものを、あらかじめ間引いてあげることで良品なみかんを育てる作業である。しかし、この摘果した青みかんは商品にならない。であれば、なんとか活用を！ということで（一社）神奈川大井の里体験観光協会では、摘果した青みかんを活用したさまざまな体験プログラムを実施している。そのひとつ、青

活動場所 大井町赤田の畑
大井町農業体験施設「四季の里」体験室

体験指導 大井町体験活動指導者 / NEAL プログラム委員会
(自然体験活動指導者)



みかんを使ったアイスづくり体験に挑戦した。青みかんの果汁をたっぷりと絞り、材料を混ぜ合わせて水で冷やしながら、ひたすら 30 分間攪拌する。冷凍庫も使わずにアイスができることに子どもたちが驚愕の様子！そして、口にしてまた驚愕する！追い青みかん果汁をトッピングする子どももいた。クールダウンしつつ、その美味しさを堪能することができた。

「里仕事」の後は、皆が抗原チェックを行った。無事に皆が陰性で、里とお別れをして再び移動となった。翌日の「海仕事」へ向けて真鶴町へマイクロバスで移動した。道中、暑さや疲れからちょうど良い休憩時間となった。

さて、今宵のお宿は大和屋。大広間で後半の活動に向けたグループ編成を行った。部屋割りも新たに決め、より一層の交流時間となった。入浴後は、



待ちに待った夕食、海メシである。新鮮なお刺身やアジフライなどが並び、なんと豪華な夕食である。山から里へ、そして海に着き、それぞれの地域食を堪能することができた。

夜の交流時間、新たな地で興奮覚めやらぬ状況下、トランプ大会や部屋にこもっての秘密談会、けん玉のパフォーマンス会がはじまった。このような自由時間が子どもたちの交流を育み、より一層の親睦に繋がっていることが実感できた。と言いつつも、明日は早朝の競り見学、5:30 の起床を目指して、早めに就寝とした。あっという間に、寝息が聞こえたきた。良い夢を見てね、zzz…。



大型の重機で畑を耕す
農家仕事の見学

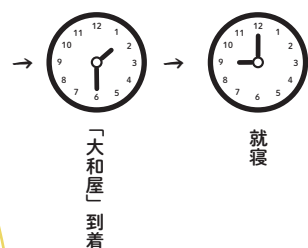


耕運機の操縦体験

種まき体験

うみ 海仕事体験。

3日目
8月24日 水



「朝だよ～！おはよう！」5:45 になっても起きる気配がない…。さすがに疲れが出てきたのだろうか。朝から晩まで、思いっきり体験に勤しんでいる子どもたち。眠たい目を擦りながら、それでも減多に見ることのできない魚市場の競り見学へ出かける。

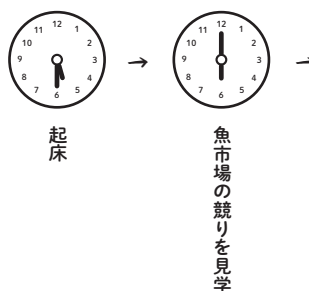
そこはこじんまりとしつつも、独特の雰囲気があった。まず、言葉が分からぬままに競りが始まり、落札者が決まっていく。不思議な光景である。カゴの中を覗かせていただくと、そこにはアジやサバ、ヒラメ、サザエに伊勢海老と海の幸のオンパレード！全ては目の前の漁師が獲ってきたものだ、漁師のカッコよさを感じる

伊勢海老漁の
定置網掃除を体験



⑦

4日目
8月25日 木



瞬間でった。

すっかり目も覚め、宿に戻った後は岩海岸までお散歩タイム。波際で遊ぶ子どもたち。砂浜で生き物を探す子どもたち。やはり子どもは遊びが似合う！最後に、砂浜にハート模様を描き、集合写真をパチリッ！大人も負けじと遊び心全開であった。

いよいよ、海仕事の体験である。海人小屋に行き、まずは、天草のゴミ取りである。ところてんにする原料である天草について貝の一種を取り除く作業で

市場で競りを見学
サザエや伊勢海老があがっていた

活動場所

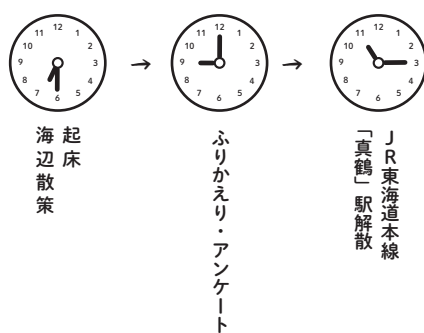
(一社) 真鶴町観光協会
海人小屋・真鶴漁港・コミュニティ真鶴 / 会議室
スマイルシェ・ケーブル真鶴

体験指導

(一社) 真鶴町観光協会・指導者



5日目
8月26日 金



ある。意外と黙々とハマってしまう子どもたちであった。お次は、伊勢海老漁に使った定置網についた海藻などを取り除く作業である。これも子どもたちには意外と好評であり、あっという間にすべて除去完了！これには漁師さんもビックリ！もっと用意しておけばよかったと…。

午後は漁師の仕事を学習するため、映像を通じて海仕事に触れる。早朝に船が出る、そんな大変さを目の当たりにする機会になった。また、伊勢海老漁師さんへの質問タイムも行われ、最後に子どもから「漁師をしていて良かったですか」の問いに、間髪入れずに少し照れくさそうに「ハイっ」と答える漁師さん。なんとも良いシーンであった。

その後は、加工体験。アワビの貝殻を使ったアクセサリづくりである。サンドペーパーで磨き、オリジナルなキーホルダーを完成させた！漁師さんとの思い出になる良いお土産となった。

最終日の夜はお別れ会。長いようであっという間だった5日間。お友だちとの思い出づくりのため BBQ 交流会！肉を

焼き、エビを焼き、野菜を焼き、日の沈む海を眺めながらの夕食となった。思い出を心に刻む、良いひとときとなった。宿に戻った後の就寝時間…。なかなか寝付けず布団の中から「明日で終わりが～、僕、目から水が出てくるよ～」との声にジーンとさせられた。

最終日、荷支度をしつつ最後のふりかえり会を行った。みんなで過ごした5日間をふりかえる。山仕事からはじまり、山ではヒルとの格闘もあったことを思い出す。そして、里では何よりも暑さが天敵であった。その分、収穫の喜びは感無量であることが実感できた。そして、海は朝早くからはじまることや、自然との戦いでもあることを学んだ。こうして一次産業に関わる仕事の大切さを体験することができたように思う。いずれも自然に依存した大切な仕事である。子どもたちが成長する過程で、今回の体験が何かの選択肢のひとつになれば幸いであると願う。

アワビの貝を磨いた
アクセサリづくり体験



⑧

事業評価（概要版）

事業評価に関しては、質問紙・インタビュー項目の設計並びに、検証について、文化学園大学安永明智教授に協力をお願いし、以下、調査を実施した。

調査方法

◎対象者
本調査の対象者は、体験事業に参加した小学生 14 人（男子 5 人、女子 9 人；小学校 4 年生 5 人、5 年生 6 人、6 年生 3 人）であった。フォローアップ調査は、2 人から調査回答が得られなかったため、12 人を分析対象とした。

◎調査手続きと質問項目
参加者には、体験事業の行動的・心理的側面への影響を検討するために、質問紙調査（体験事業参加前、体験事業参加後、体験事業参加の約 2 か月後〔以下「フォローアップ」とする〕）とグループインタビュー調査（体験事業参加後）を実施した。

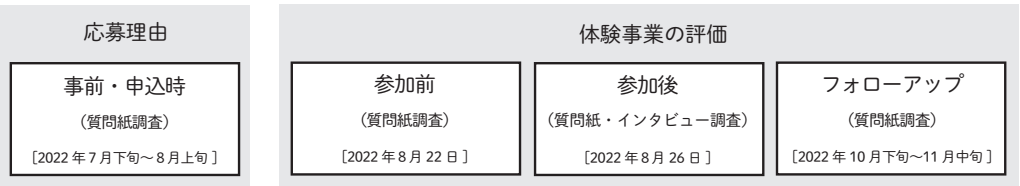


図1 調査全体の概要

◎分析方法
連続変数に関しては平均値と標準偏差を、離散変数に関しては人数と割合（％）をそれぞれ算出した。体験事業の参加前から参加後、参加後からフォローアップにかけての参加者の心理的、行動的側面の変化に関しては、Wilcoxon の順位和検定を用いて分析した※1。統計的有意水準は 5％に設定した。また、参加者の各質問項目の得点の変化を「向上（良い方向に変化）」「変化なし」「低下（悪い方向に変化）」に分類し、項目毎に集計した。自由記述から得られた回答は、個人が特定できる情報を削除した上で、できる限り原文のまま掲載した。グループインタビュー調査から得られた回答は、類似した発言をまとめて記載した。 ※1. サンプル数が少なく、各変数の分布の正規性が確認できなかったため、ノンパラメトリック検定である Wilcoxon の順位和検定を用いた。

調査結果

1. 事前調査の結果

「過去の宿泊を伴う自然体験学習への参加経験」を図 2 に示す。14 人中 11 人（78.6％）が「経験がない」、2 人（14.3％）が「1 回経験がある」、1 人（7.1％）が「2 回経験がある」と回答した。結果から、ほとんどの参加者が、宿泊を伴う自然体験学習にはじめて参加していることが分かる。

「体験事業に応募した理由」を図 3 に示す。「いろいろな人たちと知り合いになりたい・友だちになりたい」に関しては、14 人中 8 人（57.1％）が「とてもよくあてはまる」、5 人（35.7％）が「ややあてはまる」、1 人（7.1％）が「まったくあてはまらない」、「自然のことをもっとよく知りたい」に関しては、11 人（78.6％）が「とてもよくあてはまる」、3 人（21.4％）が「ややあてはまる」、「山仕事・里仕事・海仕事体験を通じて自分を成長させたい」に関しては、10 人（71.4％）が「とてもよくあてはまる」、4 人（28.6％）が「ややあてはまる」と答えた。

結果から、ほぼ全ての参加者が自然への興味、仕事体験



安永明智（やすながあきと）
文化学園大学国際文化学部・教授。
九州大学大学院人間環境学研究科博士
後期課程修了（博士・人間環境学）。
専門は健康心理学。
日本健康支援学会・評議員。
主な著書
「健康心理学・シリーズ健康心理学と仕事12」（分担任） 北大路書房。

を通じた自己の成長、友達づくりなどを目的に体験事業に参加していることが伺える。

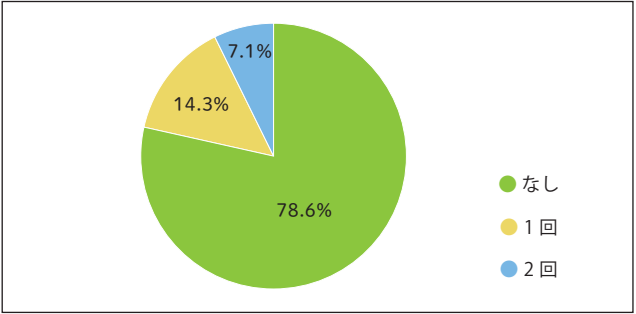


図2 宿泊を伴う自然体験学習への参加経験（回答 14 人）

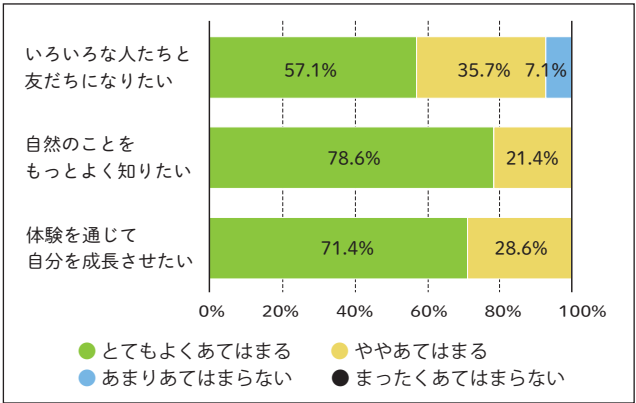


図3 体験事業に応募した理由（回答 14 人）

2. 参加者の心理的・行動的側面の変化

（体験事業の参加前後）

体験事業参加前後の参加者の心理・行動的側面の変化を表 1 に示す。Wilcoxon の順位和検定の結果、「はじめてあった人（友だち）と仲良くなれる」に関して、体験事業の参加前後で統計学的有意な得点の向上が認められた（ $p=0.02$ ）。残り 4 つの質問に関しては、体験事業の参加前後で統計学的有意な得点の変化は認められなかった。

参加者の体験事業参加価前後にかけての心理・行動的側面に関する質問項目の得点の変化を図 4 に示す。50％以上の参加者で得点の向上が認められた項目は「はじめてあった人（友だち）と仲良くなれる」であった（14 人中 8 人；57.1％）。

結果から、体験事業への参加が、参加者の「コミュニケーションを通じて人間関係を築く力」の向上につながっていることが推察できる。

表 1 体験事業参加前後の心理・行動的側面の変化（回答 14 人）

	参加前		参加後		p 値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
自分のことが好きである	3.5	1.2	3.3	1.2	0.43
はじめたことは最後までやり遂げる	3.7	1.0	3.9	1.0	0.32
困っている友だちを助ける	3.8	1.1	3.9	0.9	0.66
はじめてあった人（友だち）と仲良くなれる	3.4	1.5	4.3	0.9	0.02
自然や生き物を大切にしたい	4.8	0.4	4.8	0.4	1.00

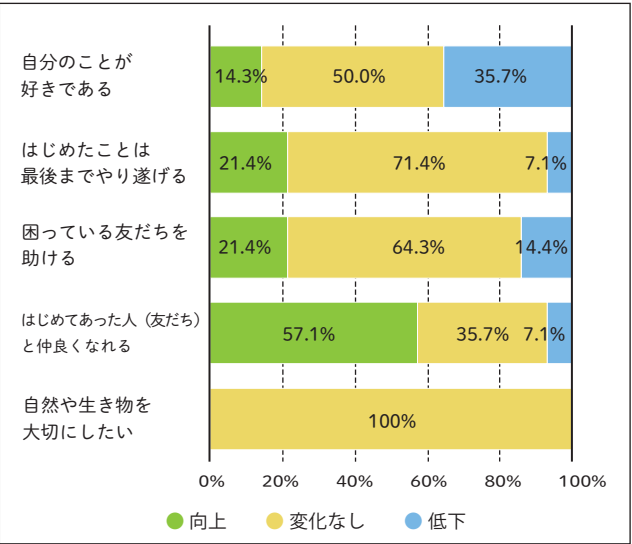


図4 体験事業参加前後の参加者の心理・行動的側面の変化（個人の得点の変化）（回答 14 人）

3. 体験事業参加後からフォローアップでの参加者の心理的・行動的側面の変化

体験事業参加後からフォローアップでの参加者の心理・行動的側面の変化を表 2 に示す。Wilcoxon の順位和検定の結果、全ての項目に関して、5％水準での統計学的有意な得点の変化は認められなかった。しかし、「困っている友だちを助ける」に関して、体験事業参加後からフォローアップで、10％水準での統計学的有意な得点の向上が認

められた（ $p=0.08$ ）。

参加者の心理・行動的側面に関する質問項目の個人の得点の変化を図 5 に示す。50％以上の参加者で得点の向上が認められた項目はなかったが、「自分のことが好きである」に関して、12 人中 5 人（41.7％）が体験事業参加後からフォローアップで得点が向上していた。

結果から、体験事業に参加したことで、その後の生活において、他者を思いやる力や自己肯定感が向上した可能性が推察できる。また、体験事業参加前後で向上が認められた「コミュニケーションを通じて人間関係を築く力（はじめて会った人（友だち）と仲良くなれる）」は、フォローアップ調査時点においても維持されている。

表 2 体験事業の参加後からフォローアップの参加者の心理・行動的側面の変化（回答 14 人）

	参加後		フォローアップ		p 値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
自分のことが好きである	3.5	1.2	3.8	0.9	0.10
はじめたことは最後までやり遂げる	3.8	1.1	3.9	1.2	0.32
困っている友だちを助ける	4.0	1.0	4.3	1.0	0.08
はじめてあった人（友だち）と仲良くなれる	4.3	1.0	4.3	1.2	1.00
自然や生き物を大切にしたい	4.8	0.4	4.8	0.5	1.00

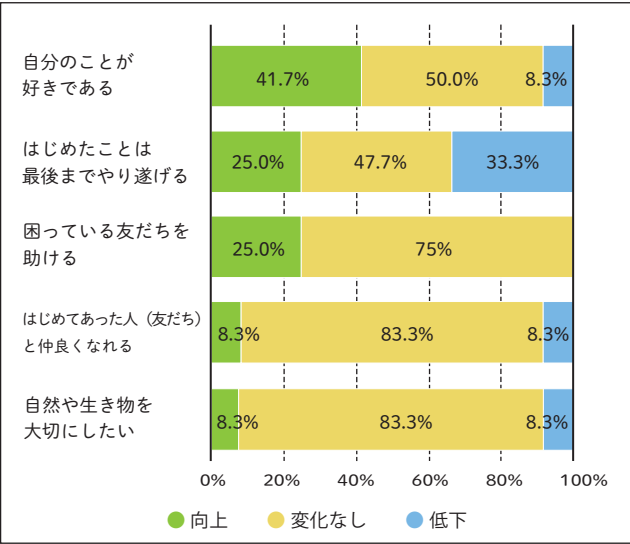


図5 体験事業の参加後からフォローアップの参加者の心理・行動的側面の変化（個人の得点の変化）（回答 14 人）

4. 体験事業の参加後に「自分が成長できた」と感じる点（フォローアップ調査）

参加者が体験事業の参加後に「自分が成長できた」と感じる点を表 3 に示す。回答を見ると、参加者は、体験事業に参加して、「体験した仕事に対する理解」を深めると同時に、「自然への興味」「自然を大切にする気持ち」「友達と協力する気持ち」「他者との人間関係を築く力」「自信や自己肯定感」「積極性」等を身に付けたことが伺える。

結果から、体験事業への参加が、参加者の豊かな心の醸成や健やかな成長につながっていることが推察できる。